

# 9.29(sat) 弦楽亭室内オーケストラ 第4回コンサート

(第1回ジュニアクラシック音楽コンクール入賞者との共演を含む)

開演/15:00 会場/那須町文化センター大ホール 料金/1,500円

## Program

### I ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト： 交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」

- 第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ
- 第2楽章：アンダンテ・カンタービレ
- 第3楽章：メヌエット アレグロ
- 第4楽章：アレグロ・モルト

交響曲第41番ハ長調 K.551「ジュピター」はモーツァルトの最後の交響曲で、32歳のときにウィーンで完成された。同年作曲された交響曲第39番、交響曲第40番とともに「3大交響曲」と呼ばれている。わずか2ヶ月間という驚くべき短期間で、性格の違う3つの交響曲を一気に書き上げたことは、モーツァルトの天才ぶりをよく表わっているといえる。副題の「ジュピター」は、当時のヴァイオリン奏者でプロフェッサーでもあったザロモンが、作品のスケールの大きさをギリシアのイメーザから、ギリシア神話の最高神の名前を付けた。モーツァルトを敬慕していたレハルト・シュト라우スは、「ジュピター交響曲は私が聴いた音楽の中で最も偉大なものである。終曲のフーガを聞いたとき、私は天にいるかの思いがけい」と賞賛している。終曲フーガ(4楽章)の最初に出てくるテーマは「ジュピター音型」と言われる有名な音型(CDFE、ドレファの4音階)で、モーツァルトが大変好んだモチーフであり、グレゴリオ聖歌に起源を持つと言われている。まさにモーツァルトの交響曲の中でも、白眉というべき楽曲となっている。

### II 第1回那須ジュニアクラシック音楽コンクール 入賞者披露演奏

～休憩～

## Profile

#### 柴田真郁【指揮者】



1979年東京都生まれ。高校では演劇を学ぶ。国立音楽大学音楽科を卒業後、合唱指揮やアシスタント指揮者として藤原節子、東京室内楽劇場などで研鑽を積む。2003年に渡欧、ドイツ各地の劇場、オーケストラで経験を積みながら、04年にウィーン国立音楽大学マスターコースでディプロムを取得。同年夏は、ハノーヴァー・シルベスター・コンサート(ドイツ)に客演指揮ブラーム室内管弦楽団を指揮。翌年冬のベルリッ室内管弦楽団にも客演指揮を果す。2005年、リセウ大劇場(スイス・ワレゼン)のアシスタント指揮者オーディションに合格し、セバスティアン・ワグネル、アントニ・ロイス・マルバ、レナート・バリン、ウゴセツァ・ヴィンセント氏等のアシスタントとして、様々な演出家や歌手と上手に合作した。帰国後は主にオペラ指揮者として活動し、池田晋一郎作曲(死神)で日本オペラ協会フェニー・五島記念音楽奨励賞(新人賞)を受賞。ヴァリアン作曲(夕陽)で「後進育成賞」(毎年開催)の公募賞と、ヒューム共作曲(管絃と合唱)「プロチュー」作曲(トスカ)に奨励賞と好評を得た。名古屋音楽大、関西音楽大、岡山シオベラ(大阪文化芸術振興助成費等)等に指揮。近年では音楽祭にも力を注いでいる。これまで日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー交響楽団、東京ユースオーケストラ管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団等と共演。指揮は十項楽器、量出量、電子鍵盤、サルト・ドール・マス・コンラに専攻。

#### 松本ゆり子【チェロ】



東京芸術大学音楽学部附属音楽科を経て同大学卒業。同大学大学院(器楽専攻)修了。アソビノ音楽専攻委員、東京シティアールホール・ミニッツ管弦楽団等において国内外の多くの音楽祭、演奏会に出演。近年はソロや室内楽、オーケストラへの客演演奏などの出演の他、新録の監修やCDのリリース、後進の指導などに幅広く活動中。

#### 比嘉一博【バストロン】



1987年生まれ。沖縄県出身。高音音楽短期大学入学。東京コンセルヴァトワール音楽学院、音楽家協会主催「東京シティ・プロフェッショナル・フレッシュ・コンサート」出演。東京市主催、新人推進オーディション合格。VDRサイトラを開催する。ネットロードの作曲家、バストロン・ブロンを最多演奏人、且上座の各氏に師事。現在、オーケストラ、ミュージカル、JAZZ、など幅広いジャンルで活躍中。

### III 第1回那須ジュニアクラシック音楽コンクール 入賞者披露演奏

#### IV ヨハネス・ブラームス：交響曲第3番 ハ長調 op.90

- 第1楽章：快活に速く、生き生きと
- 第2楽章：歩くような速さで
- 第3楽章：少しばかり速めに
- 第4楽章：快活に速く

弦楽亭室内オーケストラのコンサートは、曲目選びがすべてといっても過言ではない。曲の魅力に引きつけられるメンバーが集まってくる。だから毎回大変な苦闘を強いられるのであるが、今回はかなりすんなり決まった。あの名曲、ブラームスの交響曲、そしてあまり演奏の機会がなく、あこがれの曲と、多くのメンバーがささやく、第3番である。第3番ではオーケストラの授業を取り上げることも多く、音大自身のメンバーにとつては青春の曲である。この第3番は、曲全体が奥深いイメージであることから、ブラームスの英交響曲と呼ばれるが、第3楽章は哀愁あるメロディで、イングリッド・バグマン主演のアメリカ映画「さよならをもう一度」の挿入曲となっている。ブラームスはこの曲を、窓に矢張りを寄せていたアルト歌手が滞るする遊園地で書き上げていて、古典的な4楽章で簡潔ながらも、情感豊かなフレーズが多くあり、聞き手にも、触れ手にも羨しめる曲となっている。



矢野明子  
【ヴァイオリン】



山本大寿  
【ヴァイオリン】



小林明子  
【ヴァイオリン】



矢野明子  
【チェロ】



村松裕子  
【コントラバス】



服部孝也  
【トランペット】

#### 石川一【ファゴット】



北海道旭川市出身。1982年武蔵野音楽大学卒業後、後継者交響楽団と、第23回野群管弦楽団演奏会ではモーツァルトのファゴット楽章のソロを務めた。帰国後、後継者交響楽団アカデミーフェスティバルで「トランペット」や「ファゴット」の演奏を受け、また、海外の演奏家との室内楽も数多く共演している。村正隆、山根隆、岡崎耕吉の各氏に師事。

#### 川瀬達也【ティンパニ】



東京音楽大学卒業。2011年、新日本フィルハーモニー交響楽団入団。現在、同楽団首席ティンパニ奏者。高橋ユージツツクワレッジ専門学校専攻講師。打楽器、ティンパニを専攻し、菅原隆、久保田一朗、クルド・ランズ・ゲルティク、宮城嘉二、坂本久美の各氏に師事。

- 【ヴァイオリン】五十嵐由利子/石堂慎士/江朝史江/江面文彦/岡本由紀/小松崎倫子/鈴木高志/滝谷昭勝/福島彰幸/堀内浩之/前崎靖子  
【ヴァイオリン】鎌田洋之/佐々木浩一/新保博康/鈴木勉美/平田匠弥/松澤慶子  
【チェロ】江面順子/佐森康雄/喜多智/菅間康夫/堀内眞理/山田真理子 【コントラバス】真鍋良平/尾形和次  
【フルート】井戸沼美香/川崎聡志 【オーボエ】小出裕之/野口秀樹 【クラリネット】香取秀城/小太刀薫 【ファゴット】坂入かおり/磯田和子  
【ホルン】石田淳一/喜多美鈴/小室友理佳/服部和浩 【トロンボーン】泉信次/樋川靖



#### 弦楽亭室内オーケストラ

地域に根ざした音楽文化の活性化を目的に、那須町の音楽ホール演奏室に集まるプロ・アマ混成の若い演奏者を持つ若手音楽集団。小規模ながらも精確かつ家庭的なアンサンブルを目指し、クラシックの復興や木管楽器の普及に力をつけている。2年間に一回過去3回コンサートを開催し、いずれも好評を得ている。彰才團は、いまは若手演奏家の育成(批評家、指揮者、演奏者)への使命、また近づくオリンピックとの外国人演奏家と、地域ならではの演奏にも多く参加している。そんななか、当楽団もたまたま、少しでも元演奏家として、元気な人々になってはく、活動している。